



## 国境や民族の壁のない図書館



アガスティン サリ

上智学院理事長  
総合グローバル学部教授

Sali Augustine

2022年のSophians' Diaryの教員選書(新生に薦める本)として、私は20世紀の有名な作家ヘルマン・ヘッセ(ドイツ生まれのスイス人)の小説『シッダルタ』を推薦しました。

これに感銘を受けたドイツ出身の先生が「インド人の先生がなぜドイツ人の書物を大学生に推薦するのか」と聞いてきました。返答には少々困りましたが、「ドイツ人作家がインドやネパールを舞台にして、“シッダルタ”を主人公に人間の人生の旅における葛藤を描いていることが印象的だったからだ」と答えました。人間の生まれ育った環境は多様ですが、それぞれが自分の道を歩むなかで「何が大切か」を知るヒントを良書が与えてくれます。そこには、国境や民族の壁はありません。

私の子ども時代には、身近に図書館がなく、私には本を存分に読む余裕がありませんでした。しかし、近所に新しく図書館ができてからは、読書が楽しみの一つになりましたが、推理小説や冒険物語にしか興味はありませんでした。今でも、イギリスの小説家ダニエル・デフォーの『ロビンソン・クルーソー』(Robinson Crusoe)をマラヤラム語(私の母語)で読んでわくわくしていたことを思い出します。クルーソーが、孤島で自然や野生動物、他の漂流者と戦って生き抜く姿、自己を見つめ、成長していく様子が魅力的でした。苦悩や挫折を経て、彼は成長し、ついには故郷への帰還を果たすのです。このような物語の詳細は忘れたとしてもその影響は残っていると思います。

私は個人的には本をたくさん読むタイプの間人ではありませんが、それでも良書とよき友との巡り合いにおいて強く恵まれていると感じています。個人的に本は自国にいながらにして異文化へのアクセスを可能にしていると思います。教員、研究者として図書館は真理の探究へのアクセスにもなります。研究生生活を本格的に始めた2000年から私も上智大学図書館を利用しています。

創立110周年を迎えた上智大学の中央図書館は1983年に完成し、今年40周年を迎えます。昨年のFind Sophia(上智学生記者クラブ通信) #201の「キャンパスマップに載っていない5号館の、知られざる歴史を探る」で、現図書館とその知られざる背景や歴史について学生が面白く紹介しています。戦前の現1号館の5つの教室を間借りしていた図書館から、1952年には現2号館の場所に図書館が建てられ、その後さらに大きな図書館が必要となり、現在の図書館が竣工されました。

さて、上智学院理事長に就任したことで、今回の図書館だよりの巻頭言を書くにあたって考えたい。これからの図書館はどんなものになるのでしょうか。情報やデータがどこでも手の平に届くようなデジタル時代。そして生成AIによる研究支援等が可能になるこれからの世界の図書館の在り方はどんなものになるのでしょうか。ただ、アクセスの仕方が変わったとしても研究者の居場所、地球のハブ、知のアーカイブとしての図書館の役割は変わらないと思います。これからの図書館の在り方や発展の仕方について利用者である皆さんの知恵も拝借したいと思います。共に学ぶ仲間として、学び合う場とクリエイティブなマインドを作りましょう。



# 教えて!

# ソフィアンくん

## 第21回



みなさん、図書館地下1階のラーニングcommons内にある学習支援席を知っていますか？  
今回はラーニングcommonsの片隅で、みなさんからの相談を待っている、学習支援席のスタッフを紹介します!! 「こんなこと、先生に聞けないし…」というちょっとした疑問も、院生スタッフになら聞きやすいはず。ぜひ、活用してみたいはかがでしょう!!

## 学習支援席を活用しよう!



学生支援席  
担当者からひと言



学習支援席では、授業などで出される課題レポートやプレゼン方法、学習方法などの質問に対して、先輩の大学院生が自身の経験に基づいた確かな助言をしてくれます。

学生のみなさんと年齢も近く、これまでに同様の学習体験をした大学院生の親身な対応は、きっとみなさんの疑問や悩み解決の気づきになるでしょう。また、曜日別に各研究科の大学院生が担当しているので、同じ質問でも切り口の異なる回答を得ることができ、参考になるのではないのでしょうか。

学習支援席は予約不要で、授業期間中のお昼12時30分から夕方5時までです。ぜひ気軽に声をかけてください。お待ちしております。



## 学習支援席でこんな質問をしてみよう!

**Q** レポートの課題が出たのですが、どのように取り組んでよいのかわかりません。

**A** 科目によってさまざまなレポートのタイプがあるでしょう。学習支援席では、相談者が履修している授業やテーマについてお話を伺いながら、取り組み方をアドバイスします。

**Q** 参考文献などの資料をどのように探したらよいのかわかりません。

**A** 図書館では、CiNii、Web of Science、EBSCOhostなどの情報検索のためのデータベースを多数取り揃えています。学習支援席では、具体的な使い方や注意点について、説明を行っています。

**Q** 参考文献の書き方がわかりません。

**A** 指定されたフォーマットに即した、参考文献・引用情報の書き方について説明します。

**Q** プレゼンテーションの課題が出たのですが、初めてで何から準備したらよいのかわかりません。

**A** パワーポイント等の提示資料と、説明用の原稿が必要になります。ソフトの使い方や具体的な原稿作成方法についても、学習支援席でアドバイスを行っています。

**Q** 学習支援席ではどの程度までの支援をしてもらえるのでしょうか。

**A** 原則として論文レポート作成のためのヒントや手がかりをお伝えします。どのような疑問でも、まずはお気軽にご相談ください。



地球環境学研究科 地球環境学専攻  
西川 良穂 さん



- 【今までにこんな相談(質問)がありました】**
- 学部1年生の授業準備に対してのアドバイス(英語文献の効率的な読み方)
  - 大学院生2年生の修士論文構想発表に向けてのアドバイス(他分野からのアドバイス)

- 【こんなふうにサポートできます!】**
- 「客観的な意見が欲しい・他分野を専門としている人からの感想が欲しい・発表の練習をしたい」と思ったときは、ぜひ息抜きがてら学習支援席にお越しください!
  - ラーニング commons の学習スペースでは、集中して1人で作業をしている人、プレゼンテーションの準備といった、グループワークで自熱の議論をしている人など様々な利用者を見かけます。長時間同じ環境で作業を行っている、考えがまとまらない時がくると思います。そんな時、フロアの端っこの方でひっそりとみなさんを見守っている学習支援席を覗いてみてください。みなさんの日々のお悩み相談相手からプレゼンテーションの聞き手まで、サポートさせていただきます。

**【学生のみなさんに一言】**  
大学図書館でのお気に入りの場所、自分だけの過ごし方を見つけて、図書館を自分の秘密基地にしてください😊



総合人間科学研究科 心理学専攻  
XUE YUJIE さん



- 【今までにこんな相談(質問)がありました】**
- 引用文献をつけるかどうかに関する相談と、それをつける場合の書き方について
  - 大学院進学にあたって、研究計画書の書き方に関する相談

- 【こんなふうにサポートできます!】**
- 授業でレポート課題が出され、テーマや内容が決まらない、あるいはどのように決めればいいのか分からない時。
  - 卒業論文や修士論文に関して相談したい時。

**【学生のみなさんに一言】**  
図書館にはオンライン・オフライン、実に豊かなリソースがそろっています。ぜひ活用していただきたいです。一人で調べることもできますし、友人と一緒にディスカッションなどができるグループ学習室などもあります。さらに、困った時には私たちがようすく相談できるスタッフもいます。みなさんの学びに役立てることができると嬉しいです。ぜひ気軽にご利用ください。



理工学研究科 理工学専攻  
タイ アラン さん



- 【今までにこんな相談(質問)がありました】**
- 先生に送るメール内容のチェック

- 【こんなふうにサポートできます!】**
- 論文やレポートの書き方。文章の論理的な構成や情報の整理方法についてはお任せください。
  - データの分析方法やツールの使い方。データの解釈や分析手法に関する知識は、研究やプロジェクトにおいて必要不可欠です。
  - そのほか、発表や研究テーマに関する相談、研究の方向性やテーマ選定に迷っているとき、学術的なライティングやリサーチの方法、文献検索のコツなど、幅広くサポートします。

**【学生のみなさんに一言】**  
気軽に学習支援席に足を運んでみてください。知識と経験豊富な先輩たちが、みなさんをお待ちしています。みなさんの学習と研究に役立つ情報とツールを提供することを目指しています。ぜひ、一緒に学びましょう!



※今回取材に協力してくれた学習支援席のスタッフは、2023年度春学期のメンバーです。秋学期は変更になる可能性があります。予めご了承ください。



経済学研究科 経済学専攻  
鈴木 翔子 さん



- 【今までにこんな相談(質問)がありました】**
- 文献の調査方法、レポート構成についての確認、引用の方法、脚注の書き方、参考文献の書き方など。

- 【こんなふうにサポートできます!】**
- レポートを書く前の準備段階における確認  
例：授業で学習してきたこととレポート課題との関連性、文献の調査方法、レポート構成など
  - レポートを書いている途中段階における確認  
例：問題提起がレポートの課題への解答となっているかの再確認、引用の方法、脚注の書き方、参考文献の書き方など
  - その他：レポートの書き方に関して、上記以外でも質問がありましたらサポートします。

**【学生のみなさんに一言】**  
大学の授業で学習してきたことを踏まえ、レポート作成のどの段階でも構いませんので、質問がありましたらお立ち寄りください。よろしくお願いたします!



実践宗教学研究科 死生学専攻  
岸根 紗葵 さん



- 【今までにこんな相談(質問)がありました】**
- プレゼン発表に関して(資料の作成方法や発表時の工夫など)

- 【こんなふうにサポートできます!】**
- レポートの書き方やプレゼン資料の作り方など、実際にとりかかってみると意外と難しい…なんてことはよくあると思います。レポート作成については、序論・本論・結論といった論文の書き方から、フォント選定(字体やサイズ)、参考文献の選び方・まとめ方まで、また、プレゼン資料作成については、まとめ方はもちろんのこと、図や表の作成・挿入方法、表紙の作り方、配色設定など、細かいポイントまでお伝えできればと思います。

**【学生のみなさんに一言】**  
「先生に聞くのはハードルが高い…」「こんなこと聞いていいのかな…」「書き方が全然わからない…」など、レポート作成や発表資料作成などに関するちょっとした疑問点、不安点などが思い浮かんだら、ぜひ気軽に学習支援席にお越しください。お待ちしております!

## 図書館利用者アンケートのお知らせ

上智大学図書館では、利用者の皆様の声を集め、より良い環境と質の高いサービスを提供するために、このたびアンケートを実施する運びとなりました。このアンケートは、図書館の施設、所蔵図書・雑誌や電子ジャーナル・データベースなどをはじめとするコレクション、サービスについてのご意見をお聞きするものであり、回答は匿名で行われます。どうぞ率直なご意見をお寄せください。

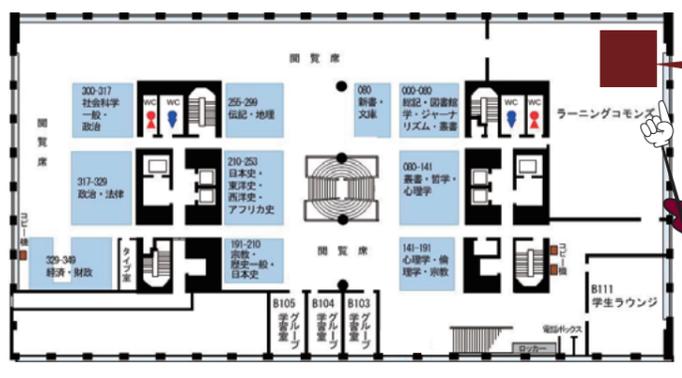


- 日時** 2023年10月2日(月)～16日(月)
- 回答方法** アンケートは記載のQRコードリンク先にアクセスし、WEBフォームにてご回答いただけます。



収集したアンケートの回答は、図書館運営の改善に生かすとともに、皆様の快適な図書館利用に活用いたします。どうぞ多くの方にご参加いただき、より良い図書館づくりにご協力ください。なお、アンケート回答により得られた個人情報は、厳重に保管し、目的以外には使用いたしませんので、ご安心ください。図書館は利用者皆様の声を大切に、より良いサービス提供に努めてまいります。

<地下1階フロア>



学習支援席は、ラーニング commons の一角です



第3回



# 読書人カレッジのご案内

日時：2023年10月23日(月)17:20～19:00

場所：図書館地下1階ラーニングcommons

■タイトル：「人は創造しない。人は発見し、そこから出発する。ーガウディの言葉よりー」

■対象：本学学部生・大学院生 ■定員：60名

※申込み方法等、詳細が決まりましたら図書館HP、LOYOLA等でお知らせします。

講師：長崎 尚志(ナガサキ タカシ)氏(マンガ原作者、小説家、脚本家)

講師プロフィール：1980年、明治大学卒業後、出版社に就職。マンガ編集者として20年間勤務。手塚治虫、白土三平、さいとうたかを、浦沢直樹、高橋留美子氏などを担当。週刊マンガ誌編集長を経て独立。マンガ原作者、小説家、脚本家となる。主なマンガ著作は、『MASTERキートン』『MASTERキートンReマスター』、リチャード・ウー名で『卑弥呼』『クロコチ』『ディアスポリス』『警部補ダイヤモンド』等。小説は『闇の伴走者』『パイルドライバー』『風はずっと吹いている』『キャラクター』他。映画脚本に『キャラクター』『20世紀少年』(一部～三部)がある。



## 読書人カレッジとは?

書評専門紙『週刊読書人』を発行する読書人が、日本財団と共に、大学生に読書の楽しさや大切さを伝えるためにスタートした企画。同紙に執筆している作家や研究者らが講師となり、企画に賛同した大学に派遣される。上智大学での第2回となる昨年は、講師にジャーナリストの増田ユリヤ氏をお招きした。

## 学生が主役！大学図書館の選書イベント開催のお知らせ 秋の選書会 ～Sophians' Book Select～ 「あなたの1冊が、みんなの1冊に」

日時：2023年10月24日(火)～26日(木)10:00～15:00 ※実施期間内、入退出自由

場所：中央図書館 地下1階 ラーニングcommons

※詳細につきましては、Loyola掲示板および大学図書館HPにてご確認ください。

大学図書館では、学生の皆さんに向けた特別な選書イベント「秋の選書会 ～Sophians' Book Select～」を企画しました。このイベントでは、学生の皆さん自身が図書館に所蔵してほしい図書を、実際に手に取って選んでいただけます。普段から図書館を利用される方はもちろん、あまり図書館を利用されない方もこの機会に是非奮ってご参加ください！



## こんな方におすすめです

「自分の専門分野の読書に興味を持ちたいけれど、どんな本を選んでいいか迷っている…」

自分の興味に合った図書を見つける楽しさを体験しましょう！

「大学図書館の蔵書に興味があるけれど、どんな本が揃っているか知りたい！」

自分の専攻に関連した図書以外にも、新たな発見があるかもしれません。

「読書に興味を持っている他の学生と交流したい！」

共通の興味を持った仲間と交流し、読書の楽しさを共有しましょう。

「他の学生はどんな本を選ぶのだろう？」

他の学生のおすすめ図書を知ること、新しい読書体験が広がり、自分とは違った視点から本を見つけること、興味を持つことができます。

「そもそも図書館を利用する機会が少ない…」

自分で選んだ図書は、より愛着を持って読むことができます。図書館を利用するきっかけにしましょう！

「大学図書館のイベントに参加して、より充実した大学生活を送りたい！」

イベントへの参加はもちろん、読書を通じて得たものは充実した大学生活を送ることができただけでなく、これからの人生においても貴重な財産となります。図書館での新しい体験が待っています！

本企画で選定された図書は、上智大学後援会(父母会)からの温かいご支援によって購入され、実際に図書館内に配架されます。

# 図書選定委員お薦めの本

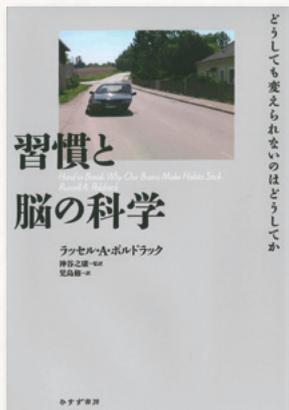
総合人間科学部心理学科 教授 日高 聡太



## 『習慣と脳の科学：どうしても変えられないのはどうしてか』

[ラッセル・A・ポルドラック(著)、神谷之康(監訳)、児島修(訳)、みすず書房、2023年]

学部図書 地下2階 491.371 : P763



心理学に関する授業をしていると、「記憶の仕組みについて習いましたが、どうすれば記憶力を上げられますか？」等々のコメントを頻繁に頂戴します。また、「コスパ」(コストパフォーマンス、費用対効果)という言葉が一般的に使用されるようになって久しいですが、最近は「タイプ」(タイムパフォーマンス、

時間対効果)という言葉も流行っているようです。心理学を含めて科学的な営みは、「コスパ」や「タイプ」とは対極にあります。例えば薬やワクチンなど身近な例を取ってみても、科学の歴史を振り返れば、何年、何十年という期間にわたり検証に耐えた知見やデータに基づきようやく真実と呼べるものにとどり着けるかどうか、という過程であることに気がつきます。さらに、ある時点で明確な結論が得られたとしても、常に知見の検証と更新が繰り返し行われます。「〇〇によって〇〇が変わる—今日から始める〇〇の方法—」などの分かりやすいタイトルが付いた本をよく見ますが、科学的な営みを鑑みれば、ある特定の時点で何か(例えば記憶力の向上の仕方)を分かりやすく断言することはとても難しいと感じます。

前置きが長くなりましたが、本書は「習慣」を科学的な視点から公平かつ客観的な態度で解説するものです。本書の冒頭に記されているとおり、我々が朝起きて身支度をやる際に各行動を逐一意識することなく円滑に行うことができるのは、習慣の機構が働いているからに他なりません。一方で、飲酒や喫煙などに見られる依存的な行動もまた習慣の機構が関わると考えられます。本書は二部構成となっており、第一部では習慣が形成される機

構について、行動的および脳機能的な側面から詳細に論じられます。人あるいは人以外の動物を対象とした研究知見に基づき、行動が習慣化する様相とその背後にある脳内ネットワークやドーパミン等の神経化学物質の働きが分かりやすく紹介されています。第二部では、習慣を変えることをテーマに種々の知見がまとめられています。これらを通じて、習慣に関する機構を包括的に理解することが出来ます。

特筆すべきは、本書は一貫して科学的に公平な視点から議論が展開されていることです。全体を通じて、その知見がどのくらい確からしいか、信用できるかについて都度丁寧に説明されます。また本書の副題が示すとおり、習慣が形成され定着する機構については科学的根拠に基づき一定の確証を持って紹介されています。一方で、習慣を変えることについては、環境を変えることがかなり有効であると考えられる反面、瞑想をするという方法はより検証が必要である、というように未だ検証を要する段階であることも明確に説明されます。そもそも本書の著者は科学的な知見の透明性、再現性を担保する取り組みに先駆的に関わってきました(監訳者である神谷先生も同様の取り組みに従事されてきたことを付言します)。著者の科学に対する真摯な姿勢が、本書のあらゆる箇所を示されています。

本書を通じて、習慣の機構がいかに我々の日頃の思考や行動に関わっているかを理解することが出来ます。さらに、科学的な取り組み・姿勢の模範例を学ぶことが出来ます。是非本書を手にとっていただき、普段の生活を支える仕組みを理解し、また生活を見直す機会に、あわせて科学的な研究の実際を知る機会にさせていただけると嬉しいです。



叡智が世界をつなぐ



**上智大学**  
SOPHIA UNIVERSITY

上智大学図書館だより No.38

発行所 上智大学図書館  
〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 TEL:03-3238-3510 FAX:03-3238-3139  
発行日 2023年10月1日  
制作 株式会社スリーライト TEL:03-5640-5430